

## 自 己 点 検 表

### 1. 教員個別表

フリガナ 氏 名	オオ モト イズミ 大 本 泉	職 名 教授 人間学部 グローバル・ス タディーズ学科	取 得 学 位 修士(文学) (大学名) 日本女子大学 (取得年月) 1984 年 3 月
-------------	--------------------	-----------------------------------	---

### 2. 教育・研究業績表

#### (1) 過去 5 年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
1. 多様化した学生のニーズに即した授業内容(日本語表現Ⅰ・Ⅱ、日本語と日本文化等)	2010. 4～	就職に直結する日本語力や表現力、日本語検定等の資格取得の学習を授業に求める学生が、年々増えている。そのような学生のニーズに応えるような授業内容を展開している。また、担当講義の中で、収集した知識から自分の見解を構築し、発信する演習も加えた。書くことのみならず、プレゼンテーションの技術を学び、人前で発表する実践等のアクティブ・ラーニングを導入した。 受講者同士の確認や、講師による文章の添削もできるだけ対応している。
2. 作成した教科書、教材、参考書		
大本泉・後藤康二・千葉正昭編『日本語表現 演習と発展【改訂版】』(明治書院)	2011.3	授業の「日本語表現」の教科書として、編者の一人として編集・執筆に参画した。
大本泉『作家のごちそう帖』(平凡社)	2014. 9	授業の「日本の社会と文学」「文学」の参考資料として使用した。
大本泉・後藤康二・二木文明・北條博史・千葉正昭編『神経症と文学 —自分という不自由—』(鼎書房)	2014. 9	授業の「文学」の教科書として使用した。
大本泉『作家のまんぷく帖』(平凡社)	2024. 4～	授業の「日本の社会と文学」の参考資料として使用した。
3. アクティブ・ラーニングの導入	2014. 4～	コミュニケーション力とプレゼンテーション力等の涵養を目的として、ゼミナールはもちろんのこと、担当する「日本の社会と文学」「日本語と日本文化」「文学」「日本語表現Ⅱ」「日本語教育実習」等で導入している。並行して、大学生として重要と思われる図書館やデータベースの使い方や資料収集の方法を習得するように工夫している。

4.資格取得の動機づけ	2013.4～	<p>日本語表現の授業におけることばの習得の一指針として、2002 年から漢字検定受験を薦めてきた。若干の学生が3級を取得して入学しているものの、文章表現の基盤となる正しい日本語を理解するためにも、高校卒業程度の力を要する2級を薦め、その内容を分析・解説し、模擬テストも行った。2013 年 4 月からの授業では、文部科学省の助成を獲得している日本語検定受験を薦め、同検定3級問題の紹介・解説と模擬試験を実践している。グローバル・スタディーズ学科の学生には、後援会からの助成を得て、4 年間の内に3級合格を目標とするように薦めている。2014 年度からは、同学科の日本語教員養成課程受講者は、原則として全員 3 級合格を課している。2014 年度後期から、筆者が昼休みに受験予定者を集めて、ワンポイントレッスンを行っている。東京書籍社長賞受賞の実績もある。</p>
5. 日本語教育	2014. 4～	<p>本学では 2006 年度から本格的に「日本語教員養成課程」たちあげに向けて、準備を進めてきた。担当する「日本語教育実習」では、2009 年度から現在まで提携校の韓国釜慶大学校日語・日文学部にて原則として毎年実習し、日本語教育と文化交流を重ねている。</p> <p>さらに同年8月から東日本大震災前まで、夏休み中、宮城県・岩手県に在籍するAFS留学生を本学内に招いて日本語講座を展開し、日本語教育と国際交流の成果をあげることができた。AFS留学生の評価が高く、さらに毎年6カ国以上の留学生に日本語を教授する経験を得た本学の学生にとっても有意義な学習だった。なお、ロンドン大学における日本語教育関係者の間でも、この実習方法の評価は高かった。</p> <p>2014 年度は、新たに、提携校の山西大学商務学院大学にて教育実習を実施することができた。</p> <p>2012 年度から日本語教育とボランティアをかねた試行として学内留学生を対象とする日本語Tutorsを募り、指導と実践を重ねている。</p> <p>2020 年は、新型コロナウイルスの影響で、渡韓できなかった。そのため前期に、学内の留学生を対象とする実習と、開南大学(台湾)と釜慶大学校(韓国)の大学生を対象としてオンライン実習を行った。</p> <p>2022 年もコロナ禍のため、「日本語教育実習」実習生の実習として、開南大学人文社会学部応用日本語学科(台湾)の学生と釜慶大学校人文社会科学部日本語日本文学科(韓国)の学生とオンラインで台湾のおすすめの観光や韓国と日本の文化の違いをテーマにディスカッションを企画し、</p>

<p>6. 海外での教育</p>	<p>2016.3～</p>	<p>実践した。          コロナ禍後のはじめての海外実習として、「日本語教育実習」で実習生 9 名を釜慶大学校(韓国釜山)へ引率し、巡視した。(2023 年 10 月)          2023 年には、ウソン情報大学(韓国)の日本語スピーチコンテストに参加する学生に、「日本語と日本文化」「日本語教育実習」受講生にボランティア活動として、テーマの立て方、原稿チェック、発音矯正等をするよう指導した。          「日本語教育実習」で実習生 6 名を釜慶大学校(大韓民国釜山市)へ引率し、巡視した。(2024 年 11 月)</p> <p>開南大学・同大学院(台湾)では集中講義、台湾大学大学院、釜慶大学校人文社会学大学日語日文学部(韓国)では日本の近現代文学特別講義をした。2023 年 10 月には、釜慶大学校人文社科学大学日語日文学部にて「日本近現代小説 特別講義(川端康成)」の講話をした。2024 年 11 月には、釜慶大学校人文社会科学大学日語日文学部にて「日本近現代小説特別講義 『ことば』の発見 一宮澤賢治『注文の多い料理店』をとおして一」を 2 年から 4 年 55 名を対象に講話をした。</p> <p>「異文化体験」(GS 学科)を企画立案して学生を引率し、マルチメディア大学(マレーシア)同大学学生・教員と交流した。(2019 年)</p>
------------------	----------------	---

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数

[著書]						
1. 大澤正道・大和田茂他編『日本アナキズム運動 人名事典【増補改訂版】』 「北原鉄雄」「ヘミングウェイ、アーネスト」「前田夕 暮」「モーパッサン」	単著	2019.4	ぱる出版		日本アナキズム運動 人名事典編集委員会 編	305 、 836 、 859、947
2 『尾崎紅葉事典』「関東五郎」「猿枕」「新色懺悔」 「文ながし」	単著	2020. 10	翰林書房		山田有策・木谷喜美 枝・宇佐美毅・市川紘 美・大屋幸世編	35 頁・75 頁・ 86-87 頁・126 頁
3 『田山花袋事物事典』「ユイスマンス」	単著	2024. 5	鼎書房		五十嵐伸治・伊狩弘・ 千葉正昭編	163～164 頁
[論文]						
1.. 正宗白鳥の「食」と文学	単著	2025. 3	「仙台白百合女子大学紀要」 第 29 号			78(1)～71(8) 頁
[その他]						
1. 座標 インバウンド増へ 文化の価値再発見が 鍵	単著	2019. 1	2019 年 1 月 19 日「河北新報」 朝刊			
2. 座標 「猫の日」を前に 地域との共生考えよう	単著	2019.2	2019 年 2 月 16 日「河北新報」			
3. 座標 高齢化と食生活 1 人の外食取り入れて		2019.3	2019 年 3 月 12 日「河北新報」			
4. 座標 鷗外の「元号考」 平和希求 共有の契機 に	単著	2019.4	2019 年 4 月 13 日「河北新報」			
5. 座標 太宰生誕 110 年 地方から文学の魅力を	単著	2019.5	2019 年 5 月 18 日「河北新報」			
6. 座標 身近な食べ物の力 各自の記憶を呼び起 こす	単著	2019.6	2019 年 6 月 11 日「河北新報」			
7. 書評「佐々木雅發著『政宗白鳥考』」	単著					

8. <食>と文学（学会研究動向）	単著	2020. 7  2021.8	「日本文学」7（日本文学協会）  日本近代文学会 東北支部会報			58-59 頁
-------------------	----	-----------------------	---------------------------------------	--	--	---------

## 翻訳

翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数

## 学術研究発表

発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
A Study of SHISOU TO JISSEIKATSU RONSOU	2019 .7	The 38 <sup>th</sup> International Conference of The Association of North-East Asian Cultures (Kazakh Abali Khan University of International Relations and World Languages)
海を超えた伝説 -正宗白鳥『コロシ寺縁起』-	2022. 11	2022 年東北亜細亜文化学会・東亜細亜日本学会秋季連合国際学術大会 文化交渉から見た東北アジア(於 兵庫大学)
漱石・鷗外の<食>をめぐる文学の試行	2023.7	2023 年東北亜細亜文化学会・東亜細亜日本学会秋季連合国際学術大会 (於 函館大学)
正宗白鳥の<食>と文学	2023.10	2023 年東北亜細亜文化学会・東亜細亜日本学会秋季連合国際学術大会 (於 仁川大学<大韓民国>)

## Ⅱ 所属学会

学会名	役職	入会年月(西暦)
-----	----	----------

日本近代文学会	運営委員(1986～1988)	1982.5
日本文学協会	評議委員(2011～2015) 運営委員(2012～2015)	1990.2
日本近代文学会東北支部会	会計監査(1995～1998) 運営委員・編集委員(2007～2011)	1995.5
日本ペンクラブ	女性作家委員(2007～2023)	2002.2
東北アジア文化学会	紀要編集委員(2007～2008)	2005.6

### Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)

助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)
区民協働まちづくり事業助成事業(仙台市)	2019	いずみ絆プロジェクト	レッツ エンジョイ! 女子学生による魅力ある泉区づくり ―インバウンド対策も視野に入れて	
区民協働まちづくり事業助成事業(仙台市)	2021	いずみ絆プロジェクト	外国人とコミュニケーション ―仙台白百合女子大学生による外国人への生活支援―	
区民協働まちづくり事業助成事業(仙台市)	2022	いずみ絆プロジェクト	外国人とコミュニケーション ―仙台白百合女子大学生による外国人への日本語および生活支援―	

### 3. 特記事項

[主な講話・講演等]	
2019年2月	泉区中央市民センター 泉シニア塾「森家の食卓」(仙台市泉区中央市民センター)
2019年5月	『『作家のまんぷく帖』を語る』日本ペンクラブ女性作家委員会 文学イベント 第4回 作家が自作を語る パネラー ドリアン助川(日本ペンクラブ理事) 木内昇(直木賞受賞作家) 司会 松本侑子(日本ペンクラブ理事)(東京堂ホール<神保町>)
2019年11月	「太宰と<食>」令和元年度 教養大学 日本近代文学リレー講座 太宰治 生誕110年「太宰治を読む・味わう・識る」(栃木県小山市立中央公

	民館)
2019 年 11 月	「食いしん坊 茂吉 ―俺はえやすでなっす―」(仙台文学館)
2019 年 11 月	「特別講演:作家の食生活と健康志向」2019 年度 仙台白百合女子大学 人間発達研究センター公開講演会 第1回 養生訓と上皮輸送研究会 (東北大学片平さくらホール<仙台市>)
2020 年3月	「福井をめぐる作家と文学」開館 5 周年記念「文学と食卓展」関連イベント (福井県ふるさと文学館)
2021 年7月	「みやぎの大学総合コース『鷗外・漱石の<食>と文学』」(仙台市宮城野区中央市民センター)
2022 年9月	青葉区中央市民センター老壮大学「あおばカレッジ」講座「文豪の食卓 ―森鷗外と夏目漱石を中心として―」(仙台市青葉区中央市民センター)
2023 年6月	大学模擬授業 学問の世界「川端康成『伊豆の踊子』 ―「私」はなぜ「海苔巻」を食べたのか―」(宮城県宮城野高等学校)
2023 年6月	「文京区をめぐる作家の<食>と文学」(東京都文京区立森鷗外記念館)
2023 年6月	「文豪の「食」と文学 ―夏目漱石と森鷗外―」(仙台白百合女子大学後援会総会講演)
2023 年6月	「世界への架け橋となる日本語・日本文学」(仙台白百合学園中学校)
2023 年8月	「世界への架け橋となる日本語・日本文学」(郡山ザベリオ学園中学校)
2023 年 11 月	「日本近現代小説 特別講義(川端康成)」(大韓民国釜慶大学校人文社会科学大学日語日文学部)
2024 年 6 月	大学模擬授業 学問の世界「新美南吉『ごんぎつね』を読み直してみよう」(宮城県宮城野高等学校)
2024 年 11 月	「日本近現代小説 特別講義『ことば』の発見 ―宮澤賢治『注文の多い料理店』をとおして―」(大韓民国釜慶大学校人文社会科学大学日語日文学部)
2025 年 5 月	令和七年度 食の学び舎研修会「『自分史』入門 ―「私」の記憶を紡ぐ年表づくり―」(中嶋みどり准教授、7 人のボランティア学生)(宮城県大衡村平林会館 3 階 大集会室)